



妻木小学校

コミュニティ・スクールの取組状況

「ふるさとを愛し、誇りをもつ子を育てたい。将来、妻木町に住み続ける子、妻木町に戻ってきてくれる子を育てたい」これは地域の願いです。本校では地域との活動を3つの部会に整理し、コミュニティ・スクールとして活動しています。

生活・学習支援部会

“地域を愛し、地域を大切に思える子どもに育てほしい”と願い、地域講師によるふるさと学習を行っています。

安全・環境整備部会

“地域と共に自らの命を大切に、命を守ることでできる子どもを育てる”ために、地域に潜む危険や通学路の点検を行っています。下石・妻木防災士会と連携し、防災教育も推進しています。

地域交流・ボランティア部会

“豊かな体験を通じて、感謝の心を育み、地域や人の役に立つ子どもを育てる”ために、高齢者との交流会や青少年ボランティア協議会と連携し、ボランティアへ積極的に参加するなどしています。

我が校のキラメキ先生



坂井岳生 先生

同校に赴任して2年目になります。今年度の自分の目標は「主体的に動く」です。何事にも早く気付き、行動できる教師になりたいです。特技のラグビーを通して培ってきた「Go Forward」の精神を大切にして、日々まい進していきます。



コミュニティ・スクールとしての活動は始まったばかりですが、地域の皆さんと願いを共有し、これまでの活動をよりよい活動に高められるように、地域と共に歩んでいきたいと考えています。



給食センター掲示板

給食センター(☎54 6195)

災害食を食べて防災について考えよう!

防災の日(9月1日)や防災週間(8月30日~9月5日)に合わせ、学校給食で「災害食」の給食を提供します。

市内の各小中学校では、「災害食」として「救給カレー」が備蓄されています。年に一度、買い替えの時期に合わせて、児童・生徒が給食と一緒に食べる体験を通して防災についての理解を深めています。

「救給カレーって何?」

東日本大震災の後に、「いのちをつなぐ」非常食として考え出されました。ごはんが入っていて、温めずそのまま食べられます。自立する容器なので、皿が不要で付属のスプーンを使います。食後は丸めて捨てられるので、ごみがかさばりません。

昨年度の災害食の給食



炊き出しおにぎり(手巻きごはん)、 救給カレー、小型パン、海藻サラダ、ウイたくあんのごまあえ、鮭の塩焼き、牛乳、リンナー、牛乳、バナナ、なすのみそ汁

災害はいつ起こるか分かりません。災害食を実際に食べる体験をしておくことで、いざというときでも安心して食べられます。日頃から災害時にはどう対応するのか家族で話し合ったり、体験したりして備えることが大切です。